

ASSOCIATION OF  
MUSICAL ELECTRONICS INDUSTRY

# AMEI

*news*

2000年3月23日発行

Vol.12

## 第2回MIDI検定試験実施



社団法人音楽電子事業協会主催にて、日本シンセサイザープログラマー協会の協力を得て、第2回MIDI検定3級試験が平成12年1月23日（日）午後1時30分より3時まで、北は北海道・旭川、南は九州・熊本まで全国72会場にて実施されました。

昨年・第1回と同様、多くの応募があり受験申込者は2,737名に達し、多くのデジタルミュージック愛好者が試験に挑みました。（詳細は報告記事にて）

### CONTENTS

● DMF開催のお知らせと出展のご案内	2・3
● MIDI検定3級実施結果	4
● MIDI検定2級実施予定	5
● 1394プロジェクト発足	6
● AMEI MIDI電子透かし方式採用決定	7
● 著作権モバイル部会	8
● NAMMビジネスツアー	9
● 委員長インタビュー	10・11
● AMEI会員名簿、AMEI会員専用ホームページのお知らせ	12

AMEI NEWS Vol.12 / 2000.3.23

社団法人音楽電子事業協会 機関誌

発 行：社団法人音楽電子事業協会 事務局

〒101-0061 東京都千代田区三崎町2-16-9

イトービル4F

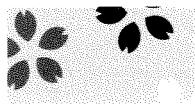
TEL. 03-5226-8550 FAX. 03-5226-8549

発行人：中田 健

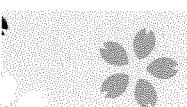
編集人：福田 誠（広報委員会）

編集協力：株式会社 ラプラス

ホームページアドレス：<http://www.amei.or.jp/>



# デジタルミュージック・フェア開催のお知らせと 出展のご案内



## 【開催の主旨】

1999年から2000年にかけて、デジタルミュージックの世界は大きく変わろうとしています。電子楽器やDTM（デスクトップ・ミュージック）はますます進化し、より便利に、そして豊かな音楽表現が可能になってきています。またインターネットを使って音楽を全世界に発信したり、また専門サイトから音楽をダウンロードし専用プレーヤーで楽しんだりするなど、インターネットを活用した新しい音楽の楽しみ方が提案され、徐々に一般に浸透してきています。このように発展著しいデジタルミュージックの世界を紹介すべく、社団法人 音楽電子事業協会と日本経済新聞社は共催で、第2回「デジタルミュージック・フェア MIDI WORLD2000」を開催いたします。音楽配信のように「聴く」ものから、電子楽器を「演奏する」、そして「作曲する」ものと、デジタルミュージックを楽しむ様々なツールを展示・紹介していきます。またセミナーやチュートリアルを通じて、デジタルミュージックの文化的発展と、ネットワーク社会での正しい音楽活用に寄与すべく努力して参ります。なお同時開催として「もっと楽しい、もっと得する、インターネット生活。ばそまる2000（主催：日本経済新聞社）」が、また同時期に「21世紀夢の技術展」（主催：日本経済新聞社）が東京ビッグサイトで開催されます。この3展で動員・告知活動の相乗効果を図りながら、より多くの方にご来場いただけます。是非企画書をご一読、ご検討の上、本展示会にご参加くださいますようお願い申し上げます。

社団法人 音楽電子事業協会  
日本経済新聞社

## 【開催概要】

名 称：デジタルミュージック・フェア  
サブタイトル：MIDI WORLD 2000  
会 期：2000年7月20日(祝)～23日(日) 10:00～17:00  
会 場：東京国際展示場（東京ビッグサイト）西ホール  
主 催：社団法人 音楽電子事業協会、日本経済新聞社  
後 援：通商産業省、文化庁（予定）  
協 力：（財）マルチメディアコンテンツ振興協会、日本楽器フェア協会、日経BP社、日経ホーム出版社、テレビ東京（予定）  
協 賛：コンピューター／音楽関連団体（予定）  
展 示 規 模：40社150小間（予定）来場対象 音楽・電子音楽を趣味とする一般／作・編曲、演奏を趣味とする一般  
／パソコンを趣味とする一般ミュージシャンをはじめとする音楽業界関係者／楽器業界関係者  
同 時 開 催：もっと楽しい、もっと得する、インターネット生活。「ばそまる2000」（主催：日本経済新聞社）  
来 場 者 数 150,000人（予定） ※同時開催イベントと共に通  
入 場 料：一般1,000円／高校生400円（税込み）※同時開催イベントと共に通  
※中学生以下および65歳以上は無料

## 【出展対象】

### 【Playing】

電子楽器（シンセサイザー、電子ピアノ、キーボード、サイレント楽器関連、その他）  
デジタルサウンド機器・ソフト（シーケンサー、サンプラー、ミキサー、その他）

### 【Composing】

デジタルサウンド機器・ソフト（シーケンサー、サンプラー、ミキサー、その他）  
デジタルレコーディング機器（ハードディスクレコーダー、MDレコーダー、CD-R、その他）  
ソフトウェア（シーケンスソフト、サウンド素材集）

### 【Listening】

ネットワーク音楽配信、携帯メモリープレーヤー（MP3など）  
着信メロディ機能のある通信携帯端末、通信カラオケなど

### 【その他の】

パソコンおよび周辺機器  
パソコン通信・インターネットプロバイダ  
音楽関連の専門学校、スクールなど音楽関連情報、出版など

## 【今年度のトピックス】

### ミレニアム企画—電子楽器博物館

20世紀に生まれた電子楽器。21世紀を間近に控えた今回、電子楽器の変遷を実物とともに紹介する主催者展示を予定しています。最初期のものから最新のテクノロジーまでを一望し、その時々の音楽を振り返ります。

### ネットミュージックスクエア（新しいデジタルミュージックの紹介）

ますます身近になるデジタルミュージック。その最先端がインターネットによる音楽配信です。プレーヤーメーカー各社、インターネット音楽配信サービス、音楽情報系ホームページの出展を募ります。

### もっと楽しく！着信メロディの紹介

携帯電話の着信メロディも、携帯端末電話の進化でさらに豊かな表現力を身につけました。子供たち、中高生に向けた情報スペースを設け、デジタルミュージックへの新しい入口として紹介する予定です。

### プロフェッショナル・デジタルミュージックコーナー

高度のデジタルミュージック愛好者にスポットをあてた、ハイエンドのハード&ソフトの展示と紹介デモコーナーを作ります。

### セミナー／チュートリアル

一般の方にはより分かりやすく、より幅広くデジタルミュージックの魅力を紹介していきます。またミュージシャンや専門学校生などに対して、デジタル音楽技術の最先端を伝えていきます。

## 【広報宣伝】

### ユーザーに確実に届く広報計画を展開

- ◎音楽／パソコン／インターネット専門雑誌にフォーカスを当て、集中的に広報・宣伝活動を行います。記事掲載を依頼するとともに、事前告知広告や来場促進キャンペーンなどの企画を打ち出します。
- ◎過去の来場者にダイレクトメールを送付します。
- ◎専門学校、首都圏の大学・高校にポスターの掲示、チラシや招待券の配布を依頼します。
- ◎楽器店、CDショップ、音楽スタジオ、ライブハウスなどへポスターの掲示やチラシ、招待券の配布を依頼します。

### インターネットによる事前告知

- ◎公式ホームページを立ち上げ、展示会の事前告知や関連情報の発信を行います。開催に向けて期待感を煽っていきます。
- ◎MIDIやデジタル関連機器を対象とするマーリングリストや、パソコン通信などでの関連フォーラムでの告知を依頼します。
- ◎MIDIを中心とするデジタルミュージック関連のホームページ主催者に、イベント告知を依頼していきます。
- ◎注目率の高い検索エンジンなどへ、展示会のバナー広告を出稿します。

### 一般紙誌への事前告知

- ◎随時ニュースリリースを作成し、新鮮な情報を各メディアに提供します。
- ◎イベント情報誌、ミニコミ誌へ告知記事の掲載を依頼するほか、特集記事の掲載を依頼します。
- ◎同時開催イベント「ばそまる2000」と連携し、相互に同時開催イベントとして告知していきます。
- ◎日本経済新聞、日経産業新聞、日経流通新聞に開催社告および関連記事の掲載を進めます。  
また日経グループの関連媒体へ記事掲載を依頼します。

※この他、出展社の皆様の本イベントへの告知活動にご協力をお願いいたします。

## 【併催イベント】

### 「もっと楽しい、もっと得する、インターネット生活。「ばそまる2000」 一般コンシューマーへあらゆる「インターネットライフ」を提案

会期	2000年7月20日(祝)～23日(日)
	10:00～17:00
会場	東京ビッグサイト西ホール
主催	日本経済新聞社
後援	文部省、厚生省、通商産業省、郵政省、東京都ほか(予定)
出展規模	200社500小間(見込み)
来場者数	15万人(見込み)

日本経済新聞社は情報機器やネットワークを活用したライフスタイルを具体的に紹介する、他に例を見ないイベントとして「ばそまる(=パーソナル・マルチメディア)」を過去2回開催し、ファミリー層をはじめとしたパーソナルユーザーに「夏のマルチメディア・イベント」として広く認知されております。第3回を迎える「ばそまる2000」は「ネットライフを楽しむための様々な機器、コンテンツ、サービス紹介」というコンセプトのもと、会期を4日間に拡充、より多くの方にご来場いただく機会を増やします。また会場構成も一新、「デジタル・ライフ・タウン」「デジタル・キッズ・タウン」の2エリアおよびアトラクションコーナーを設置するとともに、各タウン内も来場者の目的別にレイアウトいたします。2000年という節目を迎え、11万人の動員実績を元に更に内容を充実させてまいります。

### 「21世紀夢の技術展」

会期	2000年7月21日(金)～8月6日(日) [17日間]
	10:00～19:00 [金、土は21:00まで、予定]
会場	東京ビッグサイト 東ホール、会議棟
主催	日本経済新聞社
共催	東京都
動員目標	100万人

2000年7月21日(金)から8月6日(日)までの17日間、東京ビッグサイト・東ホールで「21世紀夢の技術展」(主催:日本経済新聞社)が開催されます。本イベントは科学・技術の有用性訴求とそれが生み出す豊かな未来の提示を目的に、21世紀の暮らしと深いかかわりを持つ科学・技術が紹介されます。会場内は「環境保全」「情報・通信」「生命科学」「宇宙・海洋開発」「生活基盤」と、来世紀の有力主要技術分野を分けた5つのジャンルで構成し、広く一般の方々、特に次代を担う青少年に最先端の科学・技術に触れてもらい、体験を通じた楽しさと共に、科学・技術の大切さを訴えます。

## 第2回「MIDI検定試験3級」実施結果

名 称：平成11年度 第2回「MIDI検定試験3級」

主 催：社団法人 音楽電子事業協会

協力企業：社団法人 音楽電子事業協会 会員各社

協力団体：日本シンセサイザー・プログラマー協会

実施日：平成12年1月23日午後1時30分より（90分間）

### 協力校 & 試験会場

(東京・横浜地区 19校・会場)

アイベックスミュージックアカデミー

音響技術専門学校

神奈川情報文化専門学校

デジタルゲートスクール シリコンハット学園

菅原学園日本情報ビジネス専門学校

総合学園 ヒューマンアカデミー東京校

東京工科大学

東京工業専門学校

TCA東京コミュニケーションアート専門学校

専門学校東京ビジュアルアーツ

東京ミュージック&メディアアーツ尚美

日本工学院専門学校

日本工学院八王子専門学校

パンスクールオブミュージック

ミュージック・カレッジ・メーター・ハウス

ヤマハ音楽院

代々木アニメーション学院

(大阪・京都地区 4校・会場)

大阪音楽学園キャットミュージックカレッジ専門学校

(株) J E U G I A

タイプス／コンピュータミュージッククラブ DEE  
職業訓練法人 大阪ヒューマンアカデミー

(東海・北陸地区 4校・会場)

大垣女子短期大学

名古屋音楽大学

名古屋自由学院短期大学

金沢科学技術学園・金沢科学技術専門学校

(東北地区 2校・2会場)

日本コンピュータ学園 東北電子専門学校

菅原学園 専門学校デジタルアーツ仙台

(九州地区 1校・1会場)

専門学校九州ビジュアルアーツ

(北海道地区 1校・1会場)

札幌科学技術学園・札幌科学秘術専門学校

(広島地区 1校・1会場)

広島コンピュータ専門学校

島村楽器店全国会場（39会場）

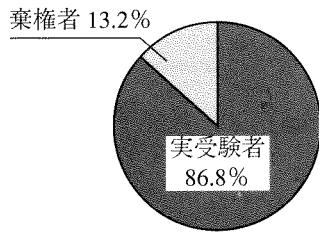
旭川、札幌、秋田、仙台、新潟、長野、水戸、松本、宇都宮、千葉、船橋、浦安、大宮、所沢、東京船堀、東京錦糸町、東京平井、新宿、八王子、横浜、本牧、金沢、名古屋、四日市、鈴鹿、和歌山、大津、三宮、姫路、岡山、米子、広島、松山、北九州、福岡、熊本、大分、佐世保、長崎

### 第2回 MIDI検定受験者分析

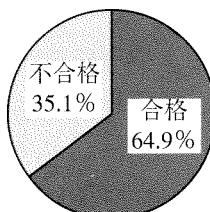
●総受験申込者 2,737名  
●実受験者 2,375名

●内受験者 1,542名（合格率64.9%）  
●受験者平均点 82.3点（第1回90.1点）

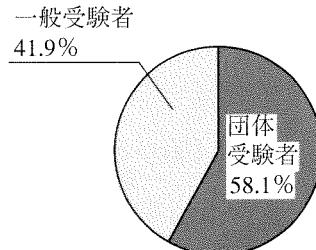
#### 1 総受験申込者



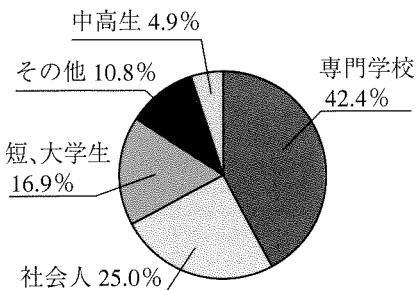
#### 2 実受験者の中の合格者



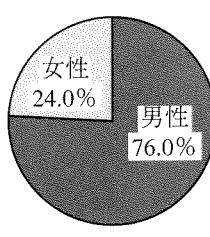
#### 3 一般と団体



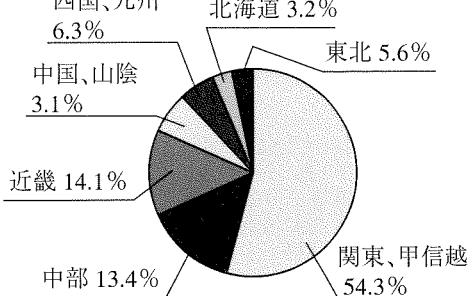
#### 4 職業別



#### 5 男女比



#### 6 地域別





さる12月20日社団法人音楽電子事業協会会議室にて下記趣旨により、1394プロジェクト設立会議が開催され、以下の方々がそれぞれ選任されました。

- ・プロジェクトリーダーに鈴木健司氏（ヤマハ株式会社）
- ・プロジェクトサブリーダーに山端利郎氏（ローランド株式会社）
- ・IEEE1394でMIDIを伝送するための標準規格、および運用ガイドラインの策定WG（通称MPWG）  
WGリーダー本庄義治氏（ローランド株式会社）及びエディター藤森潤一氏（ヤマハ株式会社）
- ・楽器用IEEE1394インターフェイスチップの仕様策定WG（AMSWG）WGリーダー相馬大三郎（株式会社コルグ）氏
- ・コネクション・マネージメント（CMWG）WGリーダー土屋佳一氏（ソニー株式会社）

また同プロジェクトの参加にあたっては、プロジェクトにより知り得た情報の第三者への守秘義務への合意及び本プロジェクトで定める内容の全部または一部についてのプロジェクトメンバーの保有する工業所有権（出願中のものを含む）の対象に含まれる場合の扱いに対する誓約書の提出が必要となります。

\*\*\*\*\*

## 1) 発足の趣旨

IEEE1394は、高速なデータ転送を実現するシリアルバス規格の一つで、世界中の家電業界やコンピュータ関連業界が多数参加して規格の標準化が進みつつあり、DVカメラをはじめとしたAV家電機器やコンピュータとその周辺機器では既に製品に実装され、普及し始めている。電子楽器業界では、現在、楽器同士や楽器とコンピュータの連携を、アナログやデジタルのオーディオ信号、MIDIによる演奏情報の伝送などによって実現しているが、今後、各々の機器がIEEE1394の接続端子を持つようになれば、これまで多数の各種ケーブルを接続する必要があったマルチチャンネルのデジタルオーディオや、多数のMIDIケーブルの接続、コンピュータやハードディスクの接続、などの全てが、1本の細いケーブルによる接続のみで実現できるようになり、新たな大マーケットに広がる可能性が見えてきている。その場合、現在のオーディオやMIDIと同様、メーカーを超えて、業界全体で規格の標準化を行い、

接続互換性を確保していくことが極めて重要となる。従来、AMEIにおいては、MIDI規格委員会 応用研究部会 MPWG（Music Protocol Working Group）で、MIDIの1394への規格標準化を進めてきた。しかし、IEEE1394の応用分野は楽器だけではなく、オーディオ、家電、コンピュータなど広範囲に広がっており、MIDIの応用のみに注目して標準化を進めていくことが困難である点、また、MMAはもちろん、AES、IEEE1394の規格標準化組織である1394TAなど多数の団体と連携しての動きが必要な点、など、MIDI規格委員会の下部にあたるWGでは十分な活動が困難になってきていた。

そこで、IEEE1394の電子楽器への応用に関して、電子楽器業界として標準化が必要な事項についての標準化作業と、応用や実装を進めていく際に業界共通で進めるべきテーマの推進のため、プロジェクトを発足して取り組んでいく必要がある。

## 2) 具体的テーマについて

以下の3つのテーマについてWG形式で進めていく。

- ・IEEE1394でMIDIを伝送するための標準規格、および運用ガイドラインの策定
- ・楽器用IEEE1394インターフェイスチップの仕様策定現在市販されているIEEE1394チップで、簡単に楽器への応用ができるものはほとんど無い。

楽器メーカー業界として、求めているチップ仕様の要求標準案をまとめ、チップメーカーに対して提示していく。  
・コネクション・マネージメント IEEE1394で接続された機器間で、互いにどういう機器が接続されているかを認識し、必要な接続設定や調停を夫々が行う必要がある。

## 3) 運営方法

- ・1394プロジェクトの定例ミーティングを月1回行う。WGの設立、テーマや期限の設定、WGリーダー、およびサブリーダーの任命を行う。また、進行中のWGについてはリーダーが中心となって進捗報告を行い、その後の方向付けや扱いを決定していく。
- ・WG毎に、リーダー、およびサブリーダーが任命され、中心になってそのテーマを進める。
- ・各WG毎にメンバーを募るのではなく、1394プロジェクト参加者全員が1394プロジェクトの全てのテーマの論議に参加できる。WG活動は通常はメーリングリストにより行う。

- ・各WGのテーマは、3ヶ月程度で完結できる具体的な目標設定を行う。その目標テーマを達成した時点でWGは一旦解散する。
- ・関連したテーマでさらにプロジェクトを進める必要が生じた場合は、一旦解散した後、新たに目標設定を行う。
- ・テーマ選定は、業界として取り組む必要のある内容に絞り込んで設定する。
- ・プロジェクト全体の活動期間として1年程度を目標とする。

# MIDIファイル用電子透かし 「AMEI標準方式決定」

## 1. 研究活動開始の経緯

AMEI著作権委員会におきましては1995年よりプロテクト部会を発足して、MIDIデータの違法複製防止についての検討ならびに研究を行ってきましたが、このたび電子透かしを利用した方向付けがまとまりましたので、ここにご報告させて頂きます。

そもそもプロテクト部会が発足した理由は、以下のような社会環境を整備する必要性を感じるに至ったことによります。

## 2. 「コピーガード」か「透かし」か

部会が発足した当初は、コピーガードで違法複製を防止すべきとの議論もありましたが、流通経路においては確かにその威力は評価されるものの、ひとたびガードが解除された途端にそのファイルは無防備になってしまうという問題に直面しました。その結果、違法複製を摘発できるための何らかの要素がファイル自体に含まれているべきであるとの結論に至り、プロテクト・ワーキンググループも結成されて電子透かしの技術的検討が開始されました。

## 3. インデックス透かし

違法複製ファイルの流通を業界ぐるみで防止するためにには、市場に出回る電子透かしを何らかの形で統轄する必要があります。すでに存在している透かし技術もあれば、今後新しい透かし技術が登場する可能性もある中で、業界団体としてどのような管理をするかは重要なテーマです。その結果、ワーキンググループで得られた結論は、透かしの二層構造という考え方です。(下図をご参照下さい)

### 1) 第一層：インデックス透かし

すべてのファイルに記録されるべき業界共通のAMEI標準透かしで、シリアルIDコードや、第二層透かしを特定するための情報などが書き込まれる。

### 2) 第二層：各社独自の透かし

ファイルの制作元が独自で記録する透かしで、インデックス透かしとの二重構造を持つことで、耐攻撃性が高まります。

## 4. AMEI標準から世界標準へ

上記のインデックス透かしは、今年から日本国内で実験的に運用を開始する予定ですが、近い将来は世界標準になるよう、米国MMA(MIDI Manufacturers Association)との調整も開始しました。先日ロサンゼルスで開催されたNAMMショーの会期中、MMAとAMEIとの間で持たれた定期会合におきまして、AMEI標準インデックス透かしの技術内容について日本

1) 楽曲の権利者(作曲者、編曲者)が、自分の作品を安心してMIDIファイル形式で使ってもらえるような環境。

2) MIDIファイルの制作者が、安心してそれを市場に流せるような環境。

すなわち、楽曲の権利者およびMIDIファイルの制作者が、自らの正当な権利を主張出来るような仕組みを作ることが音楽電子業界を代表するAMEIの役割であり、それによってこそ健全な音楽電子市場を拡大出来るとの強い認識からこの部会が発足しました。

電子透かしは違法複製そのものを防止するものではありませんが、以下の理由で違法複製を防止する効果は大です。

1) 違法複製されたものが市場に出回った場合でも、ファイルに記録されている透かし情報を読みとることによって流通経路を追跡し、自らの権利を主張する事が出来る。

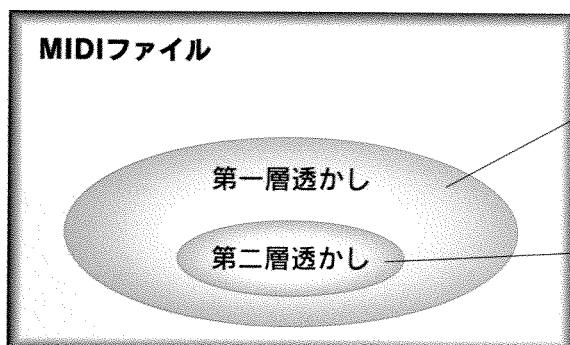
2) 透かしが記録されている事実をファイルに明記することにより、違法複製を心理的に抑制出来る。

すべてのMIDIファイルにインデックス透かしが記録されるようになれば、単一の解読装置で透かしを容易に読み取ることができます。また、インデックス透かしの記録されたファイルが不法に流通していることが確認された場合は、制作者と共にAMEIが業界代表として警告を出せるようになります。

昨年秋にこのインデックス透かし技術をAMEI内で公募し、何度かに渡る攻撃試験や視聴会を行った結果、『メタモルフォース(Metamorphose)方式』(仮名)を採用することが決定致しました。

ビクターの内藤氏よりMMAに対して説明がなされ、世界標準に向けての話し合いが事実上スタートしました。

今後は実用化に向けての作業を進めて行くことになりますが、このプロジェクトに対するご理解を更に深めて頂くとともに、皆様のご協力を宜しくお願い申し上げる次第です。



### 第一層：インデックス透かし

今回採用が決定されたAMEI標準透かしで、将来は世界標準透かしとして、市場に流通するすべてのMIDIファイルに書き込まれることを目指す。

### 第二層：各社独自の透かし

MIDIファイルの制作元が任意に書き込むことの出来る透かし。

# 著作権委員会モバイル部会の発足

## 【発足趣旨書】

音楽著作物のネットワークによる配信事業が様々な分野で立ち上がって来ており、これに対する著作権処理や権利保護のシステム、規範の構築が急務となってきていることは皆様も周知の事であります。これらの取り組みに関しては、これまで著作権委員会のインターネット部会がとりまとめを行ってきましたが、ここにきて取り巻く状況が複雑になってきているのも事実です。

その一つに、携帯電話などのモバイル端末における配信があげられます。これは、携帯電話キャリアや携帯電話製造者、また世界的統一規格となる可能性のあるWAPなどの特殊なネットワークプロトコル

など、一般的なPCとはそのシステムや事業構造などの部分で大きな違いを持っており、それゆえ配信事業に関するアプローチの方法論においても今までとは違った考え方でてくる可能性があります。これに対応するためにも、著作権委員会としては、新たに「モバイル部会（仮称）」を設立し、インターネットやPCの分野以外の音楽著作物の配信における権利の保護や権利処理部分における基本的な考え方を構築していく必要性があると思われます。また、これによりMIDIの文化を新しいマーケットでも適正なかたちで発展させていくことにも寄与できるのではないかとも考えております。

## 【モバイル部会の開催】

- ・モバイル部会の発起会が平成11年12月16日開催され、部会長に中西正人（株フェイス）氏、副部会長に中村俊介（ヤマハ株）氏、袴俊雄（日本ビクター株）氏、工藤正（株セガ・ミュージックネットワークス）氏が選出されました。
- ・第1回モバイル部会が平成12年1月12日開催され、NTT Docomo、J-フォン、DDI、アステル、ツー

## MIDI規格委員会Mobile MIDIワーキンググループの発足

携帶着メロ用音源のためのフォーマットについて第43回MIDI規格委員会幹事会にて審議され、平成11年11月10日開催された「三役会」にて今後の「MIDI」を考える中で従来の「MIDI」に固執することなく高度なMIDIや、簡易的なMIDI（Mobile MIDI等）などに取組んでいくという前向きな対応が示されました。これを受けてMIDI規格委員会Mobile MIDIワーキンググループがスタートしました。ワーキングリーダーに飛河和生（日本ビクター株）氏が選ばれました。同ワーキンググループでは次世代音楽配信について着信メロディなどのMIDIを利用したモバイル音楽演奏情報配信の技術、著作権保護方法技術を検討し、

演奏データの制作基準や著作権管理に関するガイドラインの策定などを目指して、当協会の著作権委員会プロテクトワーキンググループ並びに米国MMA（MIDI Manufacturers Association）のXMF(eXtensible Music Format)ワーキンググループとの協調作業を行なながら、新たなSMF( Standard MIDI File)フォーマットの研究を行います。

今後は着メロシステムの機能モデルの提案を行い、電子透かしなど著作権も考慮した形での推奨運用基準を順次作成しつつ着信メロディ市場各社への提言書の形でレポートを作成、発行、配布の予定です。



(MMA総会でのプレゼンテーション)



(Mobile MIDIワーキング／MMA会合)

# NAMMビジネスツアー

今年で4回目となったMIDI規格委員会主催による、NAMMビジネスツアーには18名の方々が参加され、2月2日から2月8日まで、米国NAMM Winter Marketの視察、MMA (MIDI Manufacturers Association)との会議開催及びMMA総会への参加を目的に催行された。今年のAMEI/MMA Joint meetingでは高速MIDI (IEEE1394)に関して、MMAのワーキンググループとの刷り合せ、モバイルMIDIに関するAMEIからの提案と審議、MIDI電子透かしに関するAMEIからの提案と審議など盛り沢山、深夜にまで及ぶ会議となつた。またMMA総会ではAMEIから電子透かし及びモバイルMIDIについてのプレゼンテーションを開催し多くのMMAメンバーが熱心に受講された。

## 1. NAMM 2000レポート (日本シンセサイザープログラマー協会理事長 大浜和史氏にレポートを頂きました)

世界最大の楽器トレードショーであるNAMMショーが、2月3日より2月6日まで、ロサンゼルス・コンベンションセンター（会場面積43,033m<sup>2</sup>）で「2000 NAMM International Music Market」が盛大に開催されました。出展社1,249社（1,294小間）と昨年より47社増え、また来場者も、昨年比2%アップの62,596人を記録しました。来年度のNAMMショーは拡張改装工事も終えた従来のアナハイムコンベンションセンターに戻ることが決定しています。

幕張メッセを上回る巨大な会場に1000を越す出展社。今年のNAMMはミレニアムとアメリカの好景気を象徴するかのように、連日多くの来場者でぎわっていました。ダウンタウンの各ホテルから会場まではシャトルバスが送迎する、町を上げてお祭り気分です。シンボルタワーにはNAMMの文字が大きくかかげられていきました。

エントランスにはミュージアムのコーナーがあり、歴代のシンセサイザーが展示されていました。それらはモノフォニック、ポリフォニック、モジュラーなどグループにまとめられ、中には初期型PPG、Mini Moogプロトタイプなど珍しいモデルもありました。会場では左にローランド、右にヤマハ、階上にコルグ、そして中央の巨大な会場には数百のブースが並びます。ソフト各社ではオーディオの編集機能説明が目立つ反面、シンセサイザーはアナログ的メカニックなツマミ系を良く見かけるのが印象的でした。

会場ではバームトップ（手のひらサイズ）のシーケンサーとローランドのパリフレーズなど新しいモデルと、ヤマハのファイヤーワイヤーの展示が話題となっていました。

出展は楽器以外にも音響、照明も含む様々なメーカーがあり、これらを一同に見る事が出来るのもNAMMならではです。又それぞれのブースでは熱心にデモをしているにも関わらず、会場内は普通に話しが出来る環境である事に関心しました。

会場は大きく2つのエリヤに分かれており、通路で結ばれたもう

一つのメイン会場には、ギターを中心とした数百のブースが並んでいます。ギターメーカーの多さには圧倒されますが、そこから聞こえるカントリー・ブルースにはなぜかホットさせられます。全てのブースを見終わると2日目の夕方になつてきました。トレードショーは今年の取引を決めるビジネスの場であり、明るい雰囲気の中にも仕事の厳しさが漂っていました。

今回のツアーのもう一つの目的は、MMA(MIDI MANUFACTURERS ASSOCIATION)とAMEIの会議への出席がありました。NAMM開催中に行われるこの会議は、1982年にMIDIの基本仕様の合意でMIDIが誕生したように、毎年この席上でGM, SMF, GM2などの規格が協議決定される場所であり、MIDIの聖地でもあります。今回も1394,USBなど多くの検討課題がある中、新たにAMEIからはWatermark(電子透かし)とMIDI Ring(着信メロディー)、MMAからはNew MIDI File formatの提案がありました。多くの検討課題と共に、今後の技術レベルの協議へと合意されています。席上の熱気からコンピュータに関わる音楽に、MIDIが核となつてゐる事を実感しました。

### 編集後記

アメリカでは携帯電話をセルラフォーンと呼びます。着信メロディーはミュージカルセルラフォーンといったところ。アメリカの学生には携帯電話は普及していない反面、高校生以上の多くがパソコンを持ち、インターネットでメールを活用しており、メールでのチャットが学生時代の長電話に変わっている様子。ロサンゼルスは警察官が増えたとかで、数年前とは違い治安も良く町はきれいでした。ダウンタウンは交通の便も良く、帰りは空港へ直行のフリーウェー（映画SPEEDの頃はまだ開通してなくバスが飛ぶシーンの所）で快適に帰路につきました。

## 2. MMAとのMeetingについて (会場はThe Wilshire Grand Hotel)

### ●AMEI/MMA pre-meeting

2月4日（金）15時から、IEEE1394に関するPre-Meetingを開催した。

AMEIからは1394プロジェクトのメンバーを含む6名、MMAからTLWG (Transport Layer Working Group)メンバーを含んだ5名が出席。以下のテーマについて熱心に話し合われた。

- AMEIからのドキュメント (AMEI-0016)
- RID (Registration Authority ID)
- USB-MIDI
- AMT (MIDI over Altenate Media Transport) ドキュメント (通称AMTドキュメント)

### ●Joint AMEI/MMA Meeting

2月5日（土）18時から開催した。MMAから 10名、AMEIから11名が出席。

以下のテーマについて深夜まで会議が続いた。

- MIDI Watermarking (TSB#164)
- MIDI Ring (TSB#165)
- New MIDI file format(TSB#162)
- 1394/USB/AMT(TSB#155)
- DLS Certification(TSB#159)
- MPEG Compliance(TSB#160)
- DLS Watermarking(TSB#166)
- TSB#163, #157, and #144 (MMA Voting)
- MMA/AMEI Cooperation

## 3. MMAの総会について

2月6日（日）9時から、The Wilshire Grand HotelにてMMA総会が開催された。出席者はMMAメンバー約40名とAMEIからのオブザーバー出席者であった。

●ゼネラルセッションがExecutive BoardメンバーChairmanのJames Grunkeの司会で9時より開催され、Tom White会長によりMMA及びAMEIの活動報告及び今後の計画について説明があった。

●クローズドセッションでは、最初にExecutive Board Member及びTech. Board Memberの選出が行われ次の各氏が選出された。  
[ Executive Board Member ]

James Grunke, David Oren, Athan Billias, Bob Starr  
[ Technical Standards Board Member ]

Bob Lee, Rick Cohen, Jim Wright, Joe Bryan, Bennett Sikes, Tom Savell, Robert Rampley

続いてBob Lee氏により下記の事項についてボーティングが進められた。

- TSB #163 Downloadable Sounds Level 2.1(RP)  
承認された。
- TSB #157 Recommended Use of the RMID File Format  
承認された。
- TSB #144 File Reference SysEx Message (C/A)  
承認された。

●アフタヌーンセッションが14時から開催され、約40名の参加者のものと、AMEI著作権委員会プロジェクトWGからのWatermarking (TSB#164)のプレゼンテーションを開催した。プレゼンターの同WG 内藤氏より次のようなAMEI標準電子透かしについて説明があった。

- AMEIが業界（またMMAと合同で）違法コピーに対して警告を行えるようなシステムづくり
- 階層化された電子透かしを用いる理由とその効果
- 階層化に適した第二層アルゴリズムの条件と実地方法
- 第一層と第二層を掛け合わせる際の衝突を避ける方法
- 第一層透かしに埋め込む情報の内容案

実際に透かしデータの埋め込まれた音を聞かせるといったデモやプレゼンの後では透かしを埋め込むことによるクオリティの劣化についてなど熱心なQ&Aが続きました。

●続けて15時からAMEI MIDI規格委員会Mobile MIDI WGからのAMEI MIDI Ring (TSB#165) のプレゼンテーションを開催した。内容は以下の通り。

- 全体説明（飛河WGリーダー）  
現状の日本の市場を説明し、MMAに理解してもらった。
- ヤマハ講演（二間瀬氏）  
SMAF（旧MMF）ファイルフォーマットの概要説明  
コンテンツの説明とデモ演奏
- フェイス講演（中西氏）  
ファイルフォーマットの概要説明と日本の携帯電話市場の説明、着メロの規模を数値的に説明

このプレゼンテーションを含めMMAとのMeetingの結果、AMEIの著作権委員会プロジェクトワーキンググループ並びにMMAのXMFM(eXtensible Music Format)ワーキンググループとの協調作業を行なながら、新たなSMF(Standard MIDI File)フォーマットの研究を行っていくことが確認された。

Q 1 : ソフトウェア委員会の主な活動内容をお聞かせ頂けますか。

A 1 : ソフトウェア委員会の活動方針としては、「電子音楽ソフトウェアに関する市場の育成及び業界の発展・活性化の推進」を掲げ、「マーケティング部会」、「マルチメディア研究部会」の2部会を中心に活動しています。

具体的にはそれぞれの部会活動内容（後述）にて触れますが、定例会としては、現在「著作権委員会」と合同で年10回開催しています。

この合同定例会では、それぞれの部会活動の報告と活動内容の討議及び会員の勉強会として、外部講師を招いての各種セミナーを実施しています。

Q 2 : マーケティング部会の活動内容をお聞かせ頂けますか。

A 2 : 活動方針として、「MIDIの普及啓発につながる活動を主に行う」を掲げ、活動しています。

具体的には、MIDIの普及啓発を促進する為のセミナーを毎年企画・開催していますが、昨年は、7月30日に東京ビックサイトで開催されたデジタルミュージックフェア'99会場にて、講師にシンセサイザープログラマー・プロデューサーの松武秀樹氏をお招きし、「松武秀樹のデジタル・ミュージックの世界…アナログ・サウンド・メーリングに学ぶ…」と題したセミナーを行いました。

又一昨年には、AMEIにとって重要なMIDI商標問題について、「MIDI商標WG」を立ち上げ、「MIDI商標使用に関する提案書（案）」及び「MIDI商標使用ガイドライン（案）」をまとめました。

Q 3 : マルチメディア研究部会の活動内容をお聞かせ頂けますか。

A 3 : 活動方針として、「マルチメディア、ソフトウェア、コンテンツを軸として各種調査、研究を通じMIDI、電子音楽の活性化、普及、標準化活動を行う」を掲げ、活動しています。

マルチメディア、インターネットなど時代のキーワードが呼ばれる今日ですが、マルチメディア研究部会では、音楽電子事業の中でソフトウェアに関する部分、特にMIDIデータビジネスが、マルチメディアやインターネットでどのように活用されて行くべきなのか、またそのために業界が力を合わせて行なっていかなければならぬ普及活動についての研究や情報交換の活動を行なっております。

またメーカー間の音楽ソフト互換性を保つための標準化の提案をすべくGMレベル2スコアワーキンググループなどの専門ワーキンググループ活動も行なっております。

他の活動としては、著作権委員会・プロジェクトWGと合同で、「MIDI電子透かし評価会」も実施しました。

Q 4 : いろいろなセミナーを実施しておられるようですが、最近のトピックスをお聞かせ頂けますか。

A 4 : 最近のトピックスをアランダムに挙げますと、「メディアアーティスト協会について」、「AMEI電子透かし標準化提案」、「音楽ネット配信のビジネス構造について」、「日本のECマーケット電子決済をめぐる動き」、「携帯電話着信メロディーの現状について」等々、其の時代の最先端の情報を網羅したセミナー内容で、会員の皆様から好評を得ています。

Q 5 : 西暦2000年を迎えて、今後の豊富をお聞かせ頂けますか。

A 5 : 時代の流れがますます早くなるこの世界ですが、産業界の動向を常にウォッチし、音楽ソフトウェア産業に少しでも貢献できるような様々な活動、提案を行っていこうと考えております。

また、より多くの方々がDTMやインターネットを使った音楽活動を気軽に楽しめるような様々な研究と提案を行い、この産業がますます発展していく一翼を担えれば幸せです。

又、これから本格的なネットワーク時代を迎えるにあたって、インターネットでの活動を強化すべきと考えています。AMEIサーバのアクセス数向上企画や単に広報活動としてのWEBサーバではなく、ユーザからの情報を吸収するための企画やAMEIならではのインターラクティブなシステム作りを考えられればと思っています。



小田聖之委員長

**Q 1 :** 安全要求や環境問題を取り巻く企業活動や社会の動きについてお聞かせ下さい。

**A 1 :** 国内の安全規格、電気用品取締法を例に取って説明します。現在、この法律の名称は電気用品安全法に変更され、規制緩和や国際規格 I E C 整合化の流れの中で、内容も様変わりしました。規制緩和とは、企業にとって好都合にも思えますが、実はそうではなく、行政が取り締まりを強化しない分、当然各企業が市場、顧客に対し、安全性に関する幅広いメンテナンスをしなければならなくなつたということなのです。この傾向は、世界的にはほぼ共通といえます。また企業の自主管理責任は日増しに大きくなつてきていることから、一部では、市場から I S O 9 0 0 0 の取得が必須であるとの要求も発生してきているようになります。

一方、環境問題に企業が取り組む場合は、法律規制そのものが未熟なうちに、地球環境の危機意識が国際的に高まり社会に浸透したという背景を見なければいけません。企業はそれに基づいて、社会的責任を全うするため、自主的な活動として環境問題に取り組む姿勢を打ち出し、「環境にやさしい製品」をめざし企業イメージの確保に邁進してきました。当委員会が環境問題に着手した平成7年ごろは、まさにこのような時代背景だったように思います。しかし、ここ数年で地球環境保全のための基盤作りや遅れていた法律も徐々に整備が進んでいます。

このように安全規格における企業の対応は、歴史的に古く、法律要求とうまく調和して段階的に進み、円熟してきたといえますが、環境問題は、社会的要因によって急激に変革しており、企業は法律遵守と自主管理体制作りの二つを両立させ対応しなければならない局面に遭遇しているのです。

当委員会は、安全、環境問題それぞれの持つこれら社会的背景の違いや特徴を十分理解して、今後の各課題に取り組む必要があるといえます。

**Q 2 :** 環境問題研究部会が取り組む当面の課題をお聞かせ下さい。

**A 2 :** 特に注視する点は平成12年度より完全施行の容器包装リサイクル法の動きです。この法律の対象事業者は約19万社と大幅に増加する見込みだそうです。にもかかわらず、まだこの法律に対する認識度は低く、このままでは再商品化義務の不履行者が多発する懸念があると言われています。当委員会としてもこの法律施行後の動向をしっかりと調査し、会員に対して情報のフィードバックを行いながら、時にはアンケートなどを通じて法律の遵守を訴えていくことも必要かと考えます。また、別の課題ですが、欧州では、E C 指令によって、鉛の含有濃度を削減していくことを規定し、さらにこの規制目標は2004年より鉛を全廃することにあります。そこで来期は、鉛フリーはんだの技術動向をテーマに勉強会を開催することを計画しています。更にヨーロッパの廃家電・電子機器の規制、国内の家電リサイクル法の規制動向を追うことも重要な課題です。このことに関連して、法規制動向調査のみでなく、国内の電子機器等、廃棄状況を把握するため、実際に、廃棄処理・リサイクル工程を見学しようとの計画もあります。

**Q 3 :** 同様に安全規格部会としての取り組みは?

**A 3 :** 安全規格上の課題ですが、最も重要なのは、I E C 6 0 0 6 5 (電子楽器を含む電子機器の国際規格)の改訂を確認するとともに、このI E Cへ整合化しようとする各国の規格の動向を追

うことです。すなわち、国内ではJ 6 0 0 6 5 (俗称I E C - J 6 5 )、ヨーロッパではE N 6 0 0 6 5 、米国ではU L 6 5 0 0 を調査研究することなのです。また、引き続きJ 6 0 0 6 5 を取り入れた自主依頼試験を推進し、旧電気用品取締法との差異を確認し、安全要求の変化そのものを実体的に吸収することです。

また、今日の電子楽器においては、更なる高機能化が進み、ソフトウェアの情報量が多くなるにつれて、ハードそのものも速い計算処理が要求され、その結果、ますます障害電波の対策が困難になってきました。雑音電界強度等の測定にても微妙な条件の違いにより、その結果が異なることが多くあり、測定環境を整備することは極めて重要なポイントとなります。来期計画しているE M C ラボとの技術交流会は、各国の規制動向を学習することだけにとどまらず、これら電子楽器の測定条件のすりあわせも大きなポイントとなるでしょう。また、これを機会に、E M C ラボには電子楽器の特徴をより理解していたければと思います。

**Q 4 :** 21世紀に向けてハードウェア委員会が為すべきことは?

**A 4 :** 20世紀最後の年となる平成12年度は、ハードウェアに関するこの種の課題にA M E I 自身が取り組むことの重要性やハードウェア委員会の役割と使命について関係者の皆さんと再考してみる絶好の機会かと思います。特に環境問題については、目先の突貫工事では対応できず、各企業(会員)の基礎体力が必要な時期なのです。当委員会としては、A M E I が取り組む様々な音楽事業や技術革新が成功する背景には、その基礎を支えるこれら安全性確保や環境保全に向けた地道な活動があってこそという認識に立って、その使命を全うして行かなければなりません。一つの社会問題が法制化に至るまで道のりは、最短で2年から3年かかるものです。今後も緩やかな進展ではありますが一歩一歩着実に軌道にのせ、国内外の法律動向、他業界の動きなどの情報を積極的に収集し、安全、環境のいずれの課題についても電子楽器業界ならではの活動として定着、推進していく必要がありそうです。



室伏紀昭委員長

## 会員名簿（五十音順）

あ

株式会社アートポスト  
株式会社アイ・オー・データ機器  
株式会社アイシックス  
株式会社アイデックス  
アイワ株式会社  
アカイプロフェッショナルエムアイ株式会社  
アカソフト  
株式会社アスキー  
アップルコンピュータ株式会社

い

株式会社石橋楽器店  
株式会社インターネット

え

株式会社エクシング  
株式会社エム研

お

株式会社大阪有線放送社  
有限会社オブインターラクティブ  
株式会社音響総合研究所

か

カシオ計算機株式会社  
株式会社カメオインターラクティブ  
カモンミュージック株式会社  
株式会社河合楽器製作所

ぎ

ギガネットワークス株式会社  
有限会社キュービックエナジー  
株式会社キューブ

く

クラリオンソフト株式会社

こ

株式会社コナミコンピュータエンターテインメント東京  
株式会社コルグ  
コロムビア音響工業株式会社

さ

株式会社サンワード

し

有限会社シーカーズ  
株式会社シーティーエー  
株式会社シーミュージック  
島村楽器株式会社  
シャープ株式会社  
株式会社JEUGIA  
学校法人尚美学園

す

株式会社ズーム  
株式会社鈴木楽器製作所

せ

セイコーインスツルメンツ株式会社  
株式会社セガ・ミュージック・ネットワークス

そ

ソニー株式会社

た

株式会社第一興商  
株式会社タイガシ  
株式会社タイトー  
大日本印刷株式会社  
株式会社タムラ製作所

て

ティアップ株式会社  
T D K 株式会社  
株式会社電波新聞社

と

東映ビデオ株式会社  
東京サウンド株式会社  
凸版印刷株式会社

じ

株式会社日光堂  
ニフティ株式会社  
学校法人日本工学院専門学校  
・日本工学院八王子専門学校  
日本コロムビア株式会社  
日本シンセサイザーブログラマー協会  
日本電気株式会社  
日本ビクター株式会社

ぱ

パイオニア株式会社

ひ

株式会社P F U  
ピクターテクニクスマュージック株式会社  
ピクターレジャーシステム株式会社

ふ

株式会社フェイス  
フォステクス株式会社  
不二音響株式会社  
富士通株式会社  
株式会社プライトイントインターナショナル  
株式会社プリマ楽器

へ

ペスタクス株式会社

ま

松下通信工業株式会社  
松下電器産業株式会社  
松下电工株式会社

み

有限会社ミュージカルプラン  
株式会社ミュージックネットワーク  
株式会社ミュージック・シーオー・ジェーピー  
ミュージックノート株式会社

も

株式会社モリダイラ楽器

や

株式会社山野楽器  
ヤマハ株式会社  
財団法人ヤマハ音楽振興会  
ヤマハミュージックトレーディング株式会社  
株式会社ヤマハミュージックメディア

ら

株式会社ラグナヒルズ

り

株式会社リットーミュージック  
株式会社リムショット

ろ

ローランド株式会社

わ

株式会社ワキタ

〈以上、会員会社87社〉

〈賛助会員〉

株式会社大阪村上楽器  
株式会社楽販大阪  
株式会社日本経済新聞社  
有限会社博秀工芸  
株式会社ミュージックトレード  
有限会社ミュレイディア  
株式会社ラプラス

### AMEI会員専用ホームページ開設のお知らせ

4月1日よりAMEI会員専用ホームページの開設を予定しています。

このページ内容は各委員会などで予定されている会議等のスケジュールをお知らせすると同時に、既に開催された会議などの議事録を閲覧することができます。

あらかじめ登録された会員にID、パスワードが交付され、このページに入るには、このIDとパスワードの入力が必要となります。

登録は、必ず以下のフォームにより電子メールにてお願いします。

#### 登録のためのフォーム

- メールのSubjectの項に、AMEI member HP registration (半角文字に限る) と必ず明記
- 本文に お名前、E-mail アドレス、会社名、所属、TEL、FAXを記入
- メール送付先 [webmaster@amei.or.jp](mailto:webmaster@amei.or.jp)